

# 教養部長団交を求める署名～趣意書——教養部団交実

12月14日の評議会決定～吉田寮「在寮期限」の設定～を、我々は断じて認めることができせん。大学当局は、寮生、学生の声を一切聞こうとせず、一方的な廃寮化攻撃を押し進めているのです。

学生部当局は、寮生が寮自主管理を続けていることを「異常な状態」ときめつけ、「正常化」が必要だとしていきす。とくに、貧しい者に与えられた学寮の存在意義を根底から破壊する負担区分強要攻撃が、ますます強まりつつありきす。

そして今回の「在寮期限」とは、期限をきって、それまでに自主管理寮が当局の思惑どおりの寮にならなければ、寮生を強制的に追い出すというものに他なりきせん。吉田寮の「老朽化」が表面の理由になっていきすが、修理を怠り、「老朽化」とさばれる状態をつくりだしたのは大学当局であり、また、彼らの言う「新寮」のプランも全く明確なものではないのです。

## ★廃寮化攻撃を怒りを込めて弾劾する。

9日には、寮問題の「解決」のための「本学の基本方針」なるものが、官僚・学生部長・数人の部局長によってデックあげられきした。無論、我々は黙っていきせん。ひと握りの学内権力者にさる「方針」が出された後、その撤回と学生部長との公開の場での話し合いを求めて、学友1000名の署名の力を背景とした強い闘いが開始されきした。

ところが学生部長は学生の前に姿をみせようとせず、12月13日には3リバイの「説明会」を開催しようとしてきました。翌日、「在寮期限」が学内最高議決機関とされる評議会にかけられたのみですが、「在寮期限」に関する討論は、それまで学生はもとより教員の間でも、尋常上殆どなされていきせん。そして当日もたったの30分の審議で、会議場前で抗議する多くの学生を無視して、ずさんな決定が行なわれたのです。

※署名についての詳細は、ピラキ人、または尚ケン館(内線6539)まで!

## ★教養部長の責任を追及せる!

こうした当局の一方的な措置に教養部の最高責任者として手をかしたのが、渡辺君教養部長です。我々は、こうした決定のきえに泣き寝入りするのではなく、当局の決定が全く不当なものである以上抗議の声をあげ、「在寮期限」実質化、負担区分強要を阻止してゆかねばなりきせん。我々教養生には、「基本方針」「在寮期限」設定にかかわる教養部長の責任を断固として追及する必要があるとありきす。教養部長は8月期には、貼紙防止剤塗布をはじめとした言論弾圧を総長の指令のもとで実行し、学生の糾弾の声をあびていきす。廃寮化攻撃に手をかしている教養部長の責任を我々教養生の力で追及し、学生部を包囲してゆきましよう。教養部でも、様々な管理強化が廃寮化攻撃と表裏一体のものとして進められていきす。今こそ寮自主管理と固く結合し、教養部自治運動の再生を共に克ち取ってゆこうではありきせんか。